

第10章 プロジェクトはブラックボックスにあらず (293p~326p)

2012年6月6日

担当：前田

10.1 感応度分析

- 感応度分析とは
 - 各変数がそれぞれ楽観的、悲観的な見通しとなった場合にNPVがどう変化するか。
 - 「分からないことすら分からないこと」に対応する。

- 情報の価値
 - 各変数によって情報の価値の大小がある。

- 感応度分析の限界
 - 問題①：曖昧な結論になってしまう。
 - 問題②：一度に一つの変化にしか対応できない。

- シナリオ分析
 - 特定のシナリオの下で、NPVがどう変化するか。
 - 主要な変数の値について、整合性のある組み合わせが検討できる。

- 損益分岐点分析
 - どれだけ売り上げが落ち込むとプロジェクトが損失を計上するか。
 - 会計上の利益に基づいた分析では、投資に対する資本コストを十分に賄っていない。

- 営業レバレッジと損益分岐点
 - 営業レバレッジ、すなわち固定費が高まれば損益分岐点は上昇する。

10.3 リアル・オプションとディシジョン・ツリー

- リアル・オプション
 - プロジェクトを修正するオプションのこと。

- 拡張オプション
 - 事業の拡張を決定するのではなく、拡張する柔軟性を得る。
 - 収益性のあるプロジェクトについて、価値あるリアル・オプションを有していれば、会社の市場価値は保有している実物資産の価値より高まる。

- 閉鎖オプション
 - プロジェクトに収益性がなければ、事業を閉鎖するオプションを行使することが可能。

- さらに二つのリアル・オプション
 - 投資を延期させる、タイミング・オプション
 - 投入物の変更に柔軟に対処する、生産オプション (Production option)

- 再びディシジョン・ツリーについて
 - プロジェクトの抱えるリスクや、将来の意思決定がプロジェクトのキャッシュフローに与える影響を理解するのに有用である。

- ディシジョン・ツリーの長所と短所
 - 長所：将来採り得る選択肢を認識させ、プロジェクトのキャッシュフローやリスクについて明確な見通しを与える。
短所：複雑であり、迅速性に欠ける。

- ディシジョン・ツリーとモンテカルロ・シミュレーション
 - シミュレーションの非常に大きな値と小さな値の取り扱いについては、細心の注意が必要である。

【コメント】

- ◆ プロジェクトを選択する際に、リスクに対して非常に敏感であるなと思った。
- ◆ プロジェクトの柔軟性に価値を認めているところも、リスクに敏感であるからなのだなと思った。